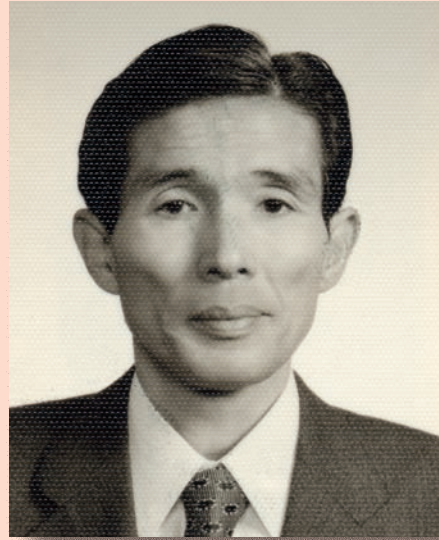


杉本春生

すぎもと はるお
岩国市
(1926～1990)



【著作】
『現代詩の方法』（昭和34・思潮社）
『抒情の思想』（昭和44・彌生書房）
『森有正』（昭和53・花神社）ほか

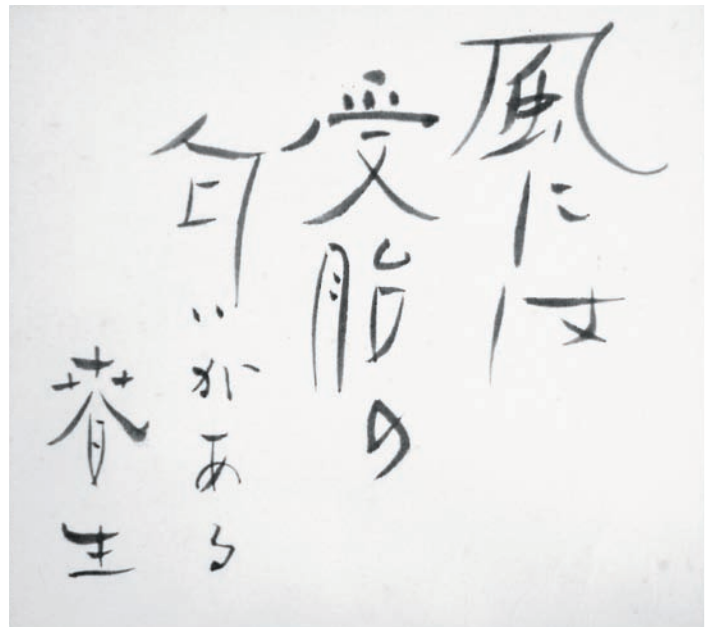
大正十五年（一九二六）四月二十一日、玖珂郡麻里布町今津（現・岩国市）に生まれた。生家は糸問屋で、裕福な生活のすべり出しだったが、不況のため家業は傾き、七歳の時朝鮮に移住。京城法学専門学校（現・ソウル大学法学部）に入学し、弁護士を志した。終戦間際に徴兵を受け、専門学校は繰り上げ卒業。敗戦により岩国に帰ってくる。日本の大学に入るべく準備中に肺結核に侵され、三年間の闘病生活を余儀なくされる。闘病中、同人誌『芸南詩人』（主宰・宮田千秋）に加わり、詩の腕を磨き始めた。戦争から解放されたものの、不透明な未来は暗い。精神的な飢えを満たすために創作と読書に没頭した。サルトル、カミュの実存主義哲学や日本文学を病身をおして貪るように読んだ。詩集『無影燈』『冬の星座』を刊行するに至る。同人誌『地球』『日本未来派』『圍繞地』にも参加。『詩学』に詩や評論を投稿したりした。

戦後の現代詩をリードした『荒地』グループの指導者、鮎川信夫と親交があり、知性と優しい感性で現代詩を分析して評論家として地歩を固めていく。昭和三十年（一九五五）『現代詩は貧困か』（『文学界』懸賞論文）は亀井勝一郎、河盛好蔵らから高い評価を受けた。『叙情の周辺』（ユリイカ出版）、『現代詩の方法』（思潮社）を出版し、不動の評論家の仲間入りをする。昭和四十四年（一九六九）『叙情の思想』（弥生書房）、昭和四十九年（一九七四）には『廃墟の結晶』（サンリオ出版）を出す。繊細な感覚と鋭い論理に裏打ちされた平易な文章は、戦後詩の啓蒙的役割を果たした。注目すべき著書として、森有正の研究がある。昭和四十七年（一九七二）に刊行された『森有正論』は特筆すべき作品だ。二度目の療養の時『流れのほとりにて』（森有正）に接し、バイブルのように読んだ。次第に森思想に傾倒していき、この感動を著書にまとめたものである。苦しい生活に耐え、哲学的思索を捨てなかつた森有正の生き方に共鳴。森有正と同じく芸術的求道者であり、詩人であり、研究者であった。

（文・稲生 慧）



句碑（岩国市横山吉香公園）



句碑文色紙

杉本春生 年譜

（提供・稲生 慧）

大正15（一九二六）年	四月二十一日、玖珂郡麻里布町今津（現・岩国市）に生まれる。	昭和48（一九七三年）	四七歳
昭和7（一九三二）年	麻里布尋常高等小学校に入学。	昭和49（一九七四年）	四八歳
昭和8（一九三三）年	七歳		
昭和18（一九四三）年	一七歳		
昭和20（一九四五）年	一九歳		
昭和22（一九四七）年	二二歳		
昭和25（一九五〇）年	二四歳		
昭和26（一九五一年）年	二五歳		
昭和27（一九五二年）年	二六歳		
昭和28（一九五三年）年	二七歳		
昭和29（一九五四年）年	二八歳		
昭和30（一九五五年）年	二九歳		
昭和32（一九五七年）年	三一歳		
昭和34（一九五九年）年	三三歳		
昭和43（一九六八）年	四二歳		
昭和44（一九六九年）年	四三歳		
昭和46（一九七一年）年	四五歳		
昭和47（一九七二年）年	四六歳		
昭和48（一九七三年）年	四月二十一日、玖珂郡麻里布町今津（現・岩国市）に生まれる。	昭和48（一九七三年）	四七歳
昭和49（一九七四年）年	麻里布尋常高等小学校に入学。	昭和49（一九七四年）	四八歳
昭和50（一九七五年）年	七歳		
昭和51（一九七六年）年	一七歳		
昭和52（一九七七年）年	一九歳		
昭和53（一九七八）年	二二歳		
昭和54（一九七九年）年	二四歳		
昭和55（一九八〇）年	二五歳		
昭和56（一九八一年）年	二六歳		
昭和57（一九八二年）年	二七歳		
昭和58（一九八三年）年	二八歳		
昭和59（一九八四年）年	二九歳		
昭和60（一九八五年）年	三一歳		
昭和61（一九八六年）年	三三歳		
昭和62（一九八七年）年	四二歳		
昭和63（一九八八年）年	四三歳		
昭和64（一九八九年）年	四五歳		
昭和65（一九九〇）年	四六歳		

2月、『村野四郎詩集』（編著・旺文社）刊行。

8月、『廃墟と結晶——戦後詩の光と闇——』（サンリオ出版）刊行。

広島短詩形文芸選者。11月、岩国市文化協会より文化向上寄与等の功績で表彰。

8月、山口県詩選の編集委員（平成元年まで）、日本現代詩人会「日氏賞」編集委員。9月、詩集『初めての歌』（溪水社）刊行。11月、岩国市文化功労賞受賞。

1月、『現代詩手帖』詩書月報を担当（二年間）。

8月、『朝日新聞』西部本社文化欄「西日本詩集評」担当（平成2年まで）。『森有正——その経験と思想』（花神社）刊行。

4月、広島女子大文学部講師（文学概論）、広島比治山女子短大講師（国文学概論）。

8月、山口県創作懇話会会長となる。（平成2年没まで）。

8月、山口県芸術文化振興奨励賞選考委員（平成2年没まで）。

『光と闇の中の詩人』（書肆季節社）刊行。

3月、「地方文化の会岩国」会長（平成2年没まで）。

4月、岩国短大教授、山口女子大文学部講師。11月、岩国市文化功労賞受賞。

11月、山口県芸術文化功労者選奨受賞。

4月、広島文教女子大学教授。

4月、『朝日新聞』西部本社文化欄「現代詩展望」担当（平成2年6月まで）。

7月、呼吸不全のため、永眠。